

不整脈に効く薬 (抗不整脈薬)について

1 不整脈について

不整脈は、基礎に心臓病(心筋虚血など)があるから発生するというものではなく、成人ではほぼ全員が不整脈(期外収縮など)を有しており、加齢によりその発生頻度が増加することが知られています。また、精神的、肉体的ストレスが関与するといわれており、致死的な不整脈に移行するのはごく一部ですが、突然死の原因のかなりの部分を占める疾患です。



2 不整脈に効く薬

不整脈を予防したり、停止させたりする薬を抗不整脈薬とよんでいます。現在、抗不整脈薬にはたくさんのものであり、約20種類もの薬が不整脈を治療する目的で使われています。抗不整脈薬と他の薬が少し異なる点は、1種類の薬で治療するのが基本であるという点です。

高血圧、糖尿病などでは薬の効果が不十分な場合、他の薬をさらに併せて服用することが多いのですが、抗不整脈薬は、効果がない場合は他の全く異なる薬に変更することが基本的なことです。

3

薬の飲み方、注意点

医師は患者さんの不整脈の種類やその他の検査結果に基づいて、最良と考えるものを多くの薬の中から選んで処方しています。しかし実際に服薬する前にその効果を完全に予想することは出来ません。もし効果がない場合には、他の異なる薬に変更しなければならないでしょう。その判断のためには、実際に薬を飲んでから不整脈はどのようになったか、体調はどのようになったか、検査の結果はどのようになったかなどを把握する必要があります。したがって特に薬が出された時にはきちんと服用した上で、体調を自分自身でもチェックするようにしましょう。



抗不整脈薬は異常な心臓の興奮を鎮めて、乱れた心臓の拍動(不整脈)を規則的にする働きがあります。しかし、それは不整脈の原因を根本的に治しているのではないので、抗不整脈薬服用後、自覚症状がなくなったからといって自己判断で薬を飲むことを中止したり減量したりすることは、非常に危険なことになる可能性があります。不整脈は、血圧や血液検査のように数字では表せませんし、診察をしてもその時不整脈がなければわかりません。

特に不整脈の治療は、患者さんと主治医の先生の共同作業が必要となります。

4

薬の副作用

医師は安全と考える薬を選んでいきますので、決められた通りに服用すれば心配することはありません。しかし、服用することを忘れたからといって一度に決められた以上の量を飲んだりすることは、大変危険ですので絶対にしないでください。

副作用は薬の種類によって異なりますが、

- 口渇感
- 便秘
- 尿がでにくくなる
といったことから、
- かえって不整脈が出やすくなったり
- めまい が起こるなどさまざまなものがあります。



もしこのような症状が気になる時は主治医の先生に相談して下さい。